

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	2015/9/4
所属学部	教育学部
所属学科・専攻	小学校教員養成課程社会科選修

1. 留学先について

留学先大学名	アクデニズ大学			
留学先所属学部等	教育学部			
留学期間	出発日 2月18日	入学日 2月23日	修了日 8月2日	帰国日 8月13日
住居	<input type="checkbox"/> 大学(紹介)の寮・アパート		<input checked="" type="checkbox"/> 民間アパート	
			<input checked="" type="checkbox"/> その他(私立寮)	
	通学時間	30分		<input type="checkbox"/> On campus
	通学方法	徒歩		
	居室スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> (4) 人部屋 <input type="checkbox"/> その他()		
共有スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 完全個室 <input type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> リビング <input type="checkbox"/> その他()			
食事	自炊 25 %	学食 5 %	外食 15 %	その他 60 % (大学寮の食事) * %で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	AIU海外旅行保険		
	大学指定の保険(名称)	OSSMA		<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入
	その他			
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウイスコンシン(電車)			
	成田 ⇄ パリ(飛行機) ⇄ イスタンブール(飛行機) アンタルヤ(飛行機)			

2. 留学にかかった費用について

総費用	650000	円	* おおよそでかまいません。			
出処						
自費	<input type="checkbox"/> 貯金	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	円	<input type="checkbox"/> その他	円
援助	<input checked="" type="checkbox"/> 両親 170000	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円	<input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input checked="" type="checkbox"/> JASSO 480000	円	<input type="checkbox"/> その他名称()			円
その他	<input type="checkbox"/> 千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/> その他()			円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金	40000	円	<input checked="" type="checkbox"/> その他(日本円)	10000	円
留学中	<input checked="" type="checkbox"/> 海外送金	<input type="checkbox"/> キャッシング	<input type="checkbox"/> その他(

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	全て現金
住居にかかった費用	全て現金
その他	旅行時はクレジットカードを多様

2-3. 内訳

* 外貨で払ったものについては日本円に換算したおおよその金額も記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	トルコリラ(TL)	3400	170000	円
海外旅行保険	TL	2540	127070	円
OSSMA	TL	389	19440	円
査証・在留許可証	TL	50	2500	円
住居	TL	1900	95000	円
食費	TL	600	30000	円
通学に要する交通費	TL	0	0	円
教科書、教材費	TL	0	0	円
その他大学に支払った経費	TL	0	0	円
光熱費	TL	住居費に含まれる	住居費に含まれる	円
その他 (旅行費)	TL	4000	200000	円
その他 ()				円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面 *必ず、後日、留学先の成績証明書と単位の互換認定が反映された千葉大学成績証明書を提出すること。

履修科目名 *全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無
1 Teaching Turkish language and literature for forighner	正規	5	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
2 turkish education system and school manegement	正規	4	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
3 learning and institution	正規	4	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
4 japanese language	聴講		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
5			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
6			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
7			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
8			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
9			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
10			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

*登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

アクデニズ大学は2セメスター制で、1セメスター目は9月から、2セメスター目は2月上旬からの開始となります。しかし、私は千葉大学後期授業のテストを全て受けてから、渡航することにしたため渡航日が2月の中旬となってしまいました。そのため、学校で授業登録したのが、セメスター3週目に入る直前であったため、授業は留学担当の先生に直接相談して、早急に授業を決めました。そうでなく、1セメスター目から留学をしている友人は、アクデニズ大学のシステムは千葉大学とほぼ同様の履修システムであったと教えてくれました。科目は、トルコの自分の興味のある分野を先生に伝えたとこ、それに見合った科目を提案してくださったのでそこから選びました。初めは多くの授業を受けようと考えていましたが、留学生が少ない教育学部では英語のみの授業があまり開設されていない、トルコ語のみの授業が多かったです。私は、トルコ語をほぼ勉強せずに留学をしてしまったため、語学に自信がなかったため、教育学部では3つの授業を選択しました。しかし、そのうちの1つの授業はトルコ語のみ、3時間半の授業であったので、私にとっては授業が少ないと感じるよりも、自分の力量に見合っていたのではないかと思います。他にも、日本人の先生が所属してらっしゃる、老人学部(社会福祉系の学部)の授業に顔を出していました。他学部の授業を受けることも可能であるので、留学をする方は、学校のホームページや先生に相談して興味のあるものを受講するのも良いかと思います。

3-2. 授業内容、方法に関して

授業は日本と同様に、先生が黒板の前に立ち、生徒たちに内容を教授していく方法が一般的であると思います。しかし、日本の大学の授業との大きな違いは、2点あると考えます。1つ目は、生徒がわからないことがあると、すぐに質問をすることです。そのため、時には質疑応答が授業の半分を占めることがあります。決してゼミのような少数人数の授業だけの話でなく、全ての授業に共通することです。意見の交換が盛んに行われ、教授が生徒に質問することも多々あります。例えば、私はよく「日本の教育はどうか?」「日本とトルコでは何が違うか」といったような、授業内容に対する日本の様子を教授から問われました。2つ目は、多くの授業の間には休憩が設けられていることです。理由としては、トルコ人の国民性として「集中力が続かない」ことや「チャイ(ストレートティー)を盛んに飲む」ことがあるという事です。たとえ1時間30分の授業であっても10分休みがあることには驚きました。先生も同時に休憩をするので自分は休憩しなくても良いと考えていても、休憩せざるを得ないような雰囲気になっていました。全体的な印象としては、日本よりも柔軟性のある授業スタイルであるという事挙げられるのではないのでしょうか。

3-3. 語学力について

トルコ留学が決まったのが渡航の8か月前であったため、大学で1セメスターの間、教養展開科目にあった「トルコ語初級」という授業を受けました。そのため、基本的な文法の仕組みは学習していました。しかし、日本に暮らしている中でトルコ語を利用する機会はゼロに等しかったため、活用することはありませんでした。単語数もゼロに等しかったです。そのような語学力で渡航したため、初めの1か月間は全く周囲の人間が何を話しているかわからなく、自分も基本的には英語を利用して生活をしていました。しかし、「郷に入ったら郷に従え」という言葉の通りに、私は現地の人と現地の言葉を使い、会話をたくさんすることを学習したいと考えたため、2か月目よりトルコ人学生が多く住む、私立の寮で暮らすことにしました。自学で勉強したことを友人やルームメイトの会話ですぐ使う。という事を繰り返していくうちに、日常会話はできるようになりました。寮内で異なる友人に会うたびに違ったことを教えてくれたことも、自分の語学力向上につながっていたのではないかと考えています。また、日本人の先輩に語学学校を紹介していただいたので、週に3、4回通っていました。半年間という短い間でも学習方法と、自分の意識次第である程度の語学力は身に付くと考えます。

3-4. 図書館など学内施設について

アクデニズ大学は規模、敷地ともに大きな大学です。徒歩だけで学内を巡ることはとても時間がかかるので、学内から乗ると無料である市営バスで基本的には移動をします。学部数も多いので、学部棟が至る所に建てられています。農学部の畜産の勉強のために、牛舎や鶏小屋もありました。付属病院もあるので一般の方も学内にいます。学内施設も充実しています。ジムやビーチバレーコート、テニスコートといったスポーツ関係施設。また、学食の他にも複合的施設(理髪店やスーパーマーケット、飲食店等が集合している)が2つあります。そのため基本的な買い物も大学内で済ますことが可能です。カフェも至るところにあるので、授業の合間にお茶をしている学生もよく見かけました。学食は、留学生であれば無料で食べることが出来たので、よく利用していました。お昼時には多くの現地学生も利用しています。他の特徴として、敷地が広いことがあり、芝生のスペースがとても多いです。芝生の上でピクニックをしている人や、読書をしている人もいました。

3-5. その他

4. 生活面 * 気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。

4-1. 住居について

私は2度引っ越しをしました。初めは、同じ時期に留学をしていた友人の家に住まわせてもらっていました。大学の寮に、学校の関係で入ることが出来なかったため、家が見つかるまでの期間お世話になっていました。もともとトルコ人と同居したいという考えがあったので、部屋が空いているトルコ人を教授や友人をつてに探したのですが、すでにセメスターが始まっていたため空き部屋がなかったことに加え、外国人と住むことに対して抵抗があるといった理由から、家を探し出すことが出来ませんでした。このような状況の時に、同じプログラムで留学をしていたキルギス人の友人に私立寮を紹介してもらうことが出来たので、2か月目からはその寮に住むことにしました。女子寮であり宗教を重んじる寮であった事に加え、ほとんどの人が英語を話すことが出来なかったため、うまく暮らしていけるか不安でしたが、友人にとっても恵まれました。日本人の私を快く迎え入れてくれ、言葉の壁はあれど困った時には手を差し伸べてくれました。また、トルコ語も先述したように一緒に学習したため、伸びは早かったのではないかと思います。また、文化や宗教に関連した催しものや友人の誕生日会にも参加したので、多くの思い出が出来ました。門限が夜の19時30分であったので、旅行や帰りが遅くなる際には、連絡することが必須でしたが、寮に帰れば友人がいたので、帰ることも一つの目的になっており、基本的には守っていました。食事も3食ついたため、トルコの家庭料理を存分に楽しむことが出来ました。ジムも併設していたので、運動不足に悩むこともなかったです。施設設備が豊富なこの条件で1か月2万円でしたので、本当に充実していました。アパート生活も良いですが、私は寮生活を留学する方にはおすすめしたいです。しかし、寮も大学が夏休みに入ると、学生が地方に帰省してしまうために一般的に閉寮してしまいます。私は授業終了後も1か月半ほどトルコ生活を続けたので、4か月目からは、これまでの期間に出会った友人の家の空き部屋に住んでいました。

4-2. 食生活について

食事は基本的に寮の食事もしくは、アパートに住んでいた時は自炊をしていました。野菜・果物は格安なので買って料理をした方が外食の何倍も安く済みます。また、週に一度「パザール」と呼ばれる青空市場が各地域で開かれていたので、そこに行って食材を買い揃えていました。例えばトマト1キロが150円で売っていたり、10キロスイカが350円だったり。それに加え気前のいいトルコ人は、他の食材をサービスしてくれました。パザールに行き、トルコの農作物に触れるのも良い経験であったのではないかと思います。外食も友人とは行きましたが、ひとりではほとんどしていません。なぜならば、トルコ料理は日本食と異なりすべての料理で油がとても使用されているため、食べ過ぎはよくないと考えたからです。お菓子も日本の友人が来た時に「よくこの甘さのものを食べることが出来るね…」と言われたほど、甘いです。しかし、実はトルコ料理は中華料理、イタリア料理と並んで世界三大料理のひとつでもあります。すべての料理がおいしく、外食をしても食べられなかったものはなかったのではないかと思います。有名なものとして日本でもおなじみの「ドネルケバブ」があります。これは小麦粉でつくった皮で鶏肉や野菜をまいて食べるファストフードですが、安いところでは150円で買うことが出来るので、よく友人と利用していました。またトルコ人の友人家に招待された際には、お母さんが豪華な料理をごちそうしてくれます。お客様を大切に作る風習があるので、このような時はいつも伝統的なトルコ料理をごちそうしてもらっていたので、外食から家庭料理まで幅広く食べることが出来ました。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

現地ケータイを一つ買い、それを利用して電話やメールをしていました。ケータイ本体の値段は5000円程度で、私のものは電話とメール機能だけがついているものでした。SIMカードを購入し、ケータイ会社のか月1200円で電話とメールをし放題というプランがあったので、利用していました。日本のシステムとは異なり、毎月更新をしに行かなければなりません。便利なシステムです。インターネットはカフェではWIFIが通じているので問題ないです。しかし、私は旅行を多くして、現地の情報やインターネットでの地図を利用しなかったため、10000円で小型WIFIルーターを購入しました。日常では使用していませんでしたが、知らない土地を歩くときに情報がないというのは、時に危険を生むと思うので、ルーターを買うことも一つの手ではないかと思います。

4-4. 服装について

気候のイメージは、ほぼ日本と同様と考えてよいと思います。冬にアンタルヤに到着した際は、とても寒かったです。また、雨期であったためレインコートもよく着用しました。夏はとても暑く、日差しが強いのでサングラスが必須です。イスラム教の国であるため、女性が大胆に肌を露出することはあまり良いとされていないこともあり、現地の方は、夏場でも長袖を着ている人がいます。しかし、多くの人は半そでにジーンズのスタイルであったので、私も同様のスタイルをしていました。洋服も安いものでは、Tシャツ250円といった破格で売られているので、足りないものは随時現地調達することが可能です。

4-5. 健康管理について

留学中に体調を崩すなんてもったいない！という考えがあったので、食事・睡眠・運動には気を付けていました。そのため半年間病気をすることなく、生活することが出来ました。慣れない土地で暮らす中では、自分が気づかぬうちに疲れていることがよくあります。また、トラブルや物事がうまく進まないことも多々あります。そのため、身体面はもちろんのこと精神面にも気遣っていました。ポイントは、全てのことを寛容に受け入れることです。特にトルコ人はマイペースで素直といった国民性を持ち合わせているので、日本人からすると理解しがたい行動をとられることもあります。待ち合わせに遅れてくることはもちろん、時には相手に悪気はなくてもびっくりするようなことを言われたこともあります。このような事に、毎度不満を抱いていたら、精神的に疲れてしまうので自分の中で「こういう特性があるのね～」といったように勉強しているような、スタンスをとることを意識していました。

4-6. 保険、OSSMAの利用 *利用実績等をご記入ください

保険は千葉大学の生協が取り扱っている「AIU学生保険」を利用していました。OSSMAにも登録していたために、約1か月に1度送られてくる、安否確認メールに返信をしていました。両保険とも、渡航日から帰国日までの範囲の分を登録していました。帰国日を決めずに、または変更可能な便を予約して留学をする際は、なるべく長い日数の保険を掛けることをお勧めします。しかし、私自身、大きなトラブルはなかったため、実際に保険を利用することはなかったです。

4-7. 課外活動について

学校外の活動の報告として、2つ記載します。1つ目に語学学校に通学していたことを挙げます。これは、日本人の先輩に紹介していただき通い始めたものです。月曜日から木曜日まで開校されており、自分の都合の合う日に行くことが出来ればよいという形式でした。そのため、自分も気負いせずに通い続けることが出来たように思います。費用も半年間で7500円。学生にとっても優しい値段でした。先生はスペイン出身の方でしたが、スペイン語・英語・トルコ語・ロシア語・アラビア語を流暢に話し、それに加え日本語も勉強中であったために、普段の会話は日本語と英語を織り交ぜて行っていました。苦し紛れにトルコ語を使用して暮らしている中で、語学学校の時間は、貴重な日本語で自分の思いを話すことが出来る時間となっていました。2つ目に、トルコ日本大使館のイベント参加です。私は、4月に行われたカマン・クルシェヒル地方の旅行と6月の考古学博物館の説明ツアーに参加しました。大使館主催のイベントなので、首都アンカラに住む日本人の方が多く参加します。大使館関係の方はもちろん、JICAや東京外語大学から留学している学生にも出会い、様々なお話を聞きました。普段、アンタルヤの地で自分の知っている日本人と会話するのは異なり、トルコに来るまでのいきさつや、旅行の話聞くことが出来たことは、自分にとって大きな収穫となりました。現地の人と関わることはもちろん大切ですが、日本人の方とコミュニケーションをとることも自分の留学生活を見つめなおすためにも、重要であると考えます。なので、留学生の方にはこのような大使館関係のイベントに参加することも推奨します。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

私は寮に3か月過ごしていたために、トルコ人の友人を多く作ることができました。アクデニズ大学に通学している人が大半でしたが、同じフロアに医学部生が多かったので医学部の友人とよくご飯を食べたりや買い物に行ったり、海に行ったりしました。先述したとおり、アクデニズ大学はとても広いために、学内で生活をしていても他学部の人に会う機会はあまりありません。また、授業を受けているだけだとなかなかクラスの友人も作りにくいので、寮の友人は私の中でとても貴重な存在となりました。また、日本人の先輩の紹介で語学学校に通学していたために、その場所でも友人が作ることが出来ました。最後にルームシェアをした友人はその場所です。また、その友人を通して他の友人を作ることが出来ました。自分が普段所属しているコミュニティ以外の場所に積極的に行くことで、新たな出会いが生まれると思います。自分の予定の都合がつく限り、私は外出するようにしていました。友達の友達に会うパターンが多いと思うので、留学期間中にはそのようなことを意識することをおすすめします。

4-9. 日本から持参してよかったもの

- ・日本のお土産…友人宅に泊まりに行くときや、お世話になった人にお礼としてプレゼントをすると、とても喜ばれかつ会話のキッカケにもなる。
- ・虫よけスプレー…夏場になると蚊が大量に発生します。また、一般的な家にはエアコンがなく、夜は窓を開けて寝ることもしばしば。必需品です。
- ・日本語トルコ語辞書…語学力を伸ばしたいと考えている人の心強い味方！日本では高く、重いので持っていくことを考えましたが、常に使用していました。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

洗剤・シャンプー・リンス…現地で容易に調達が可能。
電池…電池用品を基本的に使用しなかったため。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

トルコで暮らすにあたり、基本的なこととして「挨拶」を挙げることが出来ます。人と対面しているときも、SNSでやり取りをしているときも、電話をしているときも、全ての場面に通じて、必ず挨拶に関する決まった流れがあります。初めに「Merhaba!(こんにちは)」と言い、その後「nasılsın?(元気ですか)」と聞きます。そしたら相手は自分の調子を相手に伝え、再び相手に様態を尋ねます。これは、どんな場面でも行われるものです。また、挨拶方法はハグをして、両ほほにキスを2回です。日本人は初め、抵抗があるかもしれませんが躊躇することなく行いましょう。また、トルコ人の性格を一言で言うと、「おおらか」悪く言うと、「自己中心的」です。例えば集合時間に遅れてくることは当たり前。外で遊んでいるときも、「疲れたから、お茶をしよう」という言葉を何度も耳にしました。また、宗教的なものとして、イスラム教を信仰している人が大半であるので、信仰心の強い友人と遊んでいるときは、1日5回の「神へのお祈り」の時間になると、お祈りへ行ってしまう友人も多々いました。このような習慣を持っていることを事前に頭に入れておくと、いざその場面に遭遇した時に、互いにとって気持ちの良い対応をすることが出来るのではないのでしょうか。また、お客さんを家に呼びたがることもトルコ人の特徴です。ある程度仲良くなると、「私の家族にもあなたを紹介したいの!」と言い、自宅に招かれることがあります。その際の家でのマナーとしては、家族のおもてなしを精一杯受けることが最重要だと考えます。トルコでは、お客様はイスラム教のアッラー神から与えられた大切な人と考えられています。そのため、家に入った瞬間からお茶やお菓子などがたくさんふるまわれます。特に家で何かをするわけではないのですが、頂き物をしっかりといただき、感謝の気持ちを相手に伝えることがポイントとなると思います。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

ex) 【イギリス・ロンドン&フランス・パリ(観光)】〇〇年〇月(5日間)、約5万円

※住んでいたアンタルヤ以外に行った際のものを記載する。

- ・4月12日 (パムッカレ)60TL 3000円
- ・4月19日(オリンポス)150TL7500円
- ・4月23日～26日(アンカラ・カマン・クルシェヒル)400TL 訳20000円前後
- ・4月30日～5月3日(フェティエ)50TL 2500円
- ・5月8日～13日(イスタンブール・チャナカッレ遺跡・エフェス遺跡)600TL 3万円弱
- ・5月28日～31日(キプロス島)500TL 25000円
- ・6月11日～13日(ウスパルタ)400TL 20000円
- ・6月19日～28日(アンカラ・カルス・エルズルム・パザル・リゼ・トラブゾン)700TL 35000円
- ・6月30日～7月2日(ギリシア メイス島)400TL 20000円
- ・7月7日～7月9日(デニズリ)120TL 6000円
- ・7月11日～14日(カッパドキア・コンヤ)300TL 15000円
- ・7月17日～24日(ブルサ・サフランボル・イスタンブール)800TL 40000円
- ・8月2日～12日(フランクフルト・ミュンヘン・ザルツブルク・アムステルダム・ユトレヒト・ゴータ・ロッテルダム・デンハーグ・キンデルダイク・ブリュッセル・ブルージュ・ナミュールなど) 690ユーロ(約10万円)

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

気分転換は、運動をすることでした。寮に住んでいた時はジムが併設されていたので、そこで汗を流すことがストレス解消であったと思います。また、旅行をして新たな環境に飛び込むことも、ストレス解消になっていたと思います。

5. 報告 * 5-1～4は、年度末発行の冊子「海外派遣留学報告」の原稿となります。

5-2. 留学先大学について(150～200文字)

私が留学したのはトルコ南部アンタルヤ地方の、国立アクデニズ大学でした。この大学の大きな特徴は、2点挙げることが出来ます。1つ目は、学部数が多く敷地が広いことです。広大なキャンパスの中には、12の学部が存在しその中で30000人を超える生徒が勉学に励んでいます。2つ目は、留学生向けに英語の授業が開講されていることです。トルコ語に自信のない人は、英語授業をうまく組み合わせても良いのではないかと考えます。

5-3. 留学中の様子(450～500文字)

勉強面に関しては、語学の勉強はもちろんでしたが、それ以上に旅行をしていました。旅行は勉強に入らないのではと考える人も多いと思います。しかし、私は地理学専攻ということもあり、見知らぬ土地を歩き、その地域の特徴を知ることを主な留学の目的としていました。そのため、必ず旅行をする前には行く場所の特徴や歴史、気候をインターネットや書籍を用いて調べていました。自分が行く場所を調べるために興味関心があるのでただ自学をしているよりも何倍もの吸収率があったと思います。そして旅行をすることで知らない人と会話をする機会を得ることが出来、結果的にはすべての項目において、プラスとなっていたのではないかと感じます。生活面においては、毎朝寮の付属のジムに通っていました。留学生活を行っている中で自分でも分かるほど体重が増加していたので、この状況だと健康によくないと考えたため、運動をすることにしました。それに加え、なるべく早い時間に寝て、身体を休ませることに十分気をつけていました。留学中に風邪等をひいてしまうことは、色々な意味で勿体ないと考えます。体調管理は入念に行うことは自分が考えている以上に重要だと思います。

5-4. 留学希望者へのアドバイス(300~400文字)

留学を今後する方、またはしようと考えている方には1つだけ忘れないでほしいことがあります。それは、海外旅行とは違うという事です。より長い時間外国で生活するがために、文化の違いに触れる機会が多くなります。日本で過ごしてきた皆さんにとっては、多くの点で、日本との違いとを感じるがために、時にストレスを感じてしまう事があるでしょう。しかし、常に前向きに、多くの経験をする事が大切であると考えます。私自身、見知らぬ国で半年間住み、今その生活を振り返ると日本で暮らしている中では考えられないような、貴重な経験をしていたのではないかと思います。もちろん、先述したように思うように物事が進まず、イライラしてしまったこともあります。しかし、このような時こそ成長できるチャンスなのです。自分の柔軟性を使い、周りの人と協力して乗り越えてほしいです。みなさんが充実した留学生活を送ることが出来ることを心から願っています。

5-5. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

半年間の留学生活を無事に終え、最も変わったことは自分自身を認めることができたことです。留学以前も、私は友人関係や大学生活等トラブルなく日々充実して生活することが出来ていました。しかし、それは周りの人に恵まれているだけではないか。自分の良いところや、長所を認めてくれている友人は本当にいるのかといった事を、考えていました。そのため、海外に行ったとき、ゼロから生活を作る環境の中で自分という人間が周囲にどのように受け入れられるのかは、不安でもありました。しかし、トルコの生活でも私という人格を認めてくれる友人がたくさんいて、本当に充実した生活を送ることが出来ました。それは日本に帰国した今でも、トルコの友人から近況を心配する連絡が途絶えないことが示しているのではないのでしょうか。また、多くの困難にもめげず自分の力で解決したことも今では自信となっています。留学を通して、勉学はもちろんですが何よりも人間力が上がったのではないかと感じています。留学に行く前まではこのような文章を自信をもって書くことが出来ませんでした。しかし、今は胸を張って言う事が出来ます。正直、海外の生活がこんなにも自分自身を高めてくれるとは予想していませんでした。これは自分にとって本当にプラスであったと確信しています。同時に、自分が日本人であることも再確認しました。留學生活の中でいくら自分で何かをしようと思っても、思い通りに行かないことの方が多いです。そんな時に相談していたのは、日本にいる家族や友人でした。また、自分の語学力では伝えきれない思考を日本語で言いたいとき、聞いてもらっていたのも、日本にいる友人でした。このような経験を踏まえて、私は帰国後もっと自分の考えを深くし、また日本について堂々と紹介できる人間になろうと考えました。海外で生活をして、自分は何となく日本人であったことを再確認したのです。残りの大学生活で私は、日本での経験をより大切にしていきたいなと思います。留学中によく日常生活のことを質問されました。例を挙げると、「日本ではお米が食べられているの？なんでパンではないの？」このような事を会話の中で急に聞かれると、いくら毎日食べている米の事であろうと、なかなか説明することが出来ないのです。語学力の問題もありますが、それ以前に自分の思考が固まっていないという事に気付かされました。日々の何気ない生活の中でも、一場面、一場面切り取ると、たくさんの「知らない」が出てくると思います。いま、私はそれに気づくことが出来たので、日々の生活を大切にいき、自分の考えをしっかりと相手に伝えていきたいと考えます。今回の留学に際して、応援をしてくれた家族、友人、プログラム関係者様方にはたいへん感謝をしています。機会があればまた、外国へ行きたくさんの学びをしたいと考えています。

お疲れ様でした